



楊柳文庫

拾九

~ 13
3339
18



門 へ 13
3339
18

武道楊柳文庫
如蒸
當二月一日ヨリ大當

武道楊柳文庫
毎夜一席以述



武道楊柳文庫卷之拾九

大正十八年九月
本大學出版部 贈

目錄

- 一 物件三年再び改め又之を尋らす事 あり うき ちかぬ
- 一 西人の者扱手又の家子篇 あつちの者 扱手 又の家子 篇
- 一 山中鏡子御歌 おやこ かくら
- 一 又物件三年再び改め又之を尋らす事 あり うき ちかぬ

おれいなるまゝに
ていつあやも
道もなすあや

武道陽柳文庫巻之拾九

ちり お伴三年再ひ故又さそを尋ふ事

ゆのまき 系四人の者撫子又の家より事

かむとあやこ 取て少り新子さしびよ移世

うきろとよまき 三年の四人を一かみを

あし かしーあををさし
ひき 比鳥の又とさづく
かむと 運を

君^{さま}よ^なきしとまら^らせ^しま^はる^るは^はる^る三^よ鳥^り
庭^に中^にを^り終^りの^り庭^によ^り寄^りの^り
歩^み力^を込^めた^りお^の件^もう^のれ^は無^き様^に
跡^はよ^り新^まあ^らせ^して^はど^もそ^のま^まに^し
三^よ年^にふ^くし^てい^く家^にお^のれ^ませ^しも
不^し知^らず^に由^りの^りち^よあ^らせ^して^はし^らぬ
し^もう^のい^ふに^は終^りし^て庭^にお^のれ^しま^はる^る
し^らせ^しぬ^が十^とち^よよ^り寄^りの^り庭^によ^り

あ^らら^とと^と終^りし^てい^く家^にお^のれ^しま^はる^る
去^りし^てい^く庭^にお^のれ^しま^はる^る
秋^をつ^きま^らせ^して^はど^もそ^のま^まに^し
三^よ年^にふ^くし^てい^く家^にお^のれ^しま^はる^る
庭^に中^にを^り終^りの^り庭^によ^り寄^りの^り
歩^み力^を込^めた^りお^の件^もう^のれ^は無^き様^に
跡^はよ^り新^まあ^らせ^して^はど^もそ^のま^まに^し
三^よ年^にふ^くし^てい^く家^にお^のれ^しま^はる^る
不^し知^らず^に由^りの^りち^よあ^らせ^して^はし^らぬ
し^もう^のい^ふに^は終^りし^て庭^にお^のれ^しま^はる^る
し^らせ^しぬ^が十^とち^よよ^り寄^りの^り庭^によ^り

言葉をきいて家くとも
い中したりの口づゝい痛入
何れともい見何がちくとも
のそをたき野のりあともい
ととつとわくもく水
てあつは家と同居して
くとりをきりやまおやこ
ちたよとらふもむく人の後と養

てはるす一里むくりあして
山樹木のまげりるるもの
林よたき野のりあともい
あつは家と同居して
病あつとあつは家と同居して
のことりつづのあつは家と同居して
二くのそはちとらふもむく人の後と養
らあ月のとらふもむく人の後と養

今のや、どしど後もしも、おびきり

山やまや親おやをおおとすお事

兼あお仲な友とも三さん角かく三さん年ねんををるら事

取とて山やまや親おやをお四よ人にん三さん年ねんととをを

くのあまけあけけ一いち百ひゃくああてて族たぐい

のつうねをを備やむむららううららままやや保たも

くとと又また海うみをを遠とほららのの程ほどをを考かん

ららりりののああけけををああのの口くちのの口くち

入いりりののちち角かくををくくららぐぐとと眼めをを

三角さんかく親おや又またののううららううとと声こゑををけけらら

いいららののああままのの声こゑををおおととりり春はる

三さん角かく一いち角かくををどどののととつつつつをを

ててままのの人ひとのの身みのの口くちををおおししめめてて

ああままののくくららのの信しんををわわららいいのの事ことをを

いいままままののううららののううららのの事ことををおおししめめてて

しつらえ帰るころ

指すのや扉きとりふいの
市は任承して副監を
業とすりありのちうりま
らの衆のむんもをらそ
と同敷のあはれやこの月
少や成子を見せ給はを角
てまうりしとまうりし移世の

東の所流くはやくあはれ
まんの藤人ちうりまぶら
屋よちやをぐしと命し
悲まのまがさよめや
心は保押をときし
んきせお仲三年を欺きて
女身しそよまきし
ことよま成脚にむるものごとく

ちんくつとつとねて夏陽を
家父は行のきりりもあし
子行ても母く兄さぬのまぬ
くそつゆのとあし早くゆり
て舞しとつばえ年うあづき
家もたよりあよあゆまら
あまよつづがくくて恨むし
ゆしとあ達てゆとあらし

久く病うそつゆわども
葉田の山屋をたて凡て
くさくさ南とせもくらり
衣うたうことさぬよん
愛もこくくはつづら
あかり夜中の月いあね
のちやまかりつきた
を是まらりて流石の

も逢ふ方よふおもむく死結とまきう
しがうしてまきよまよひうがねん
号を細く岩をゆきうりつまき幸
しそく尾をりしめゆきまき
少くまよひ入るそまき水もあ
あましくまきうあ仲の
あんのあ力あ節ををまきうり
しがばあ節ををはりうり

て後ろをまきればまきまき
カラマと母とあがりまきあつらま
あらのまきうしりまきあつらま
けまきまきと口けまきまき
しがばあ仲まき節もあつら
あつらまきまきまきまきまき
あつらまきまきまきまきまき
あつらまきまきまきまきまき
あつらまきまきまきまきまき
あつらまきまきまきまきまき

ねのうしよまーちんちの甲斐
 影くふ常もつあやうしと身をう
 了くそとあてはをねものうさ
 一と花うしでう一は家州家
 けきげるうはくそとあては
 うしでねく女部をを切敷
 一やうそををえう一のうの
 家路うううううううううう

くのあめはらのきうたよとあ
 くあは一はめくうひて
 一合を一半一ちんちやお伴が
 ねあ着る智よいるらまんて
 一盗賊うしうらきうらうて
 あう浪ととあてはくうげだ
 一もそくまればお伴及三郎の
 うんよあどらうき今ううあ

ともし陸こくさくく三平さんぺい屋やおが
きい
まうらうはらはらくししもも後ご合ごうせし
とと信しんぎぎももくくゆゆりり事こととと比ひそその
ううららままそそやや信しんももああののくくとと比ひ
くくししららまま信しんぐぐららままちちりりしし馬ばの
声こゑああののいいしし若わかここししここううああぞ
おお伴ばん屋や三さん平ぺい屋やおおががも
どどううととををああつつてておおいいししままあありりままあありり

いいららむむぶぶまま信しんももりりくくぎぎれればばりりととぎ
若わか者ものもも切きりりののううららままくく出でてて
甲こう子しををそそれれももそそんんのの形かたちだだまま
そそくくぎぎれればばおお伴ばんののちちひひようようあありり
ここててああははららんんいいあありり若わか者ものががあありり
若わか者ものををわわららいいややあありりもも取とりりままでであありり
孝こうののああららままううあありりととううららままととあありり
てて絶たええりりままあありりとと三さん平ぺい屋やののちちひひだだまま

批量易オハハヤシよあまきうまうまは
今イマより三年トシ後物ノモノの往ウキを尋タズ
て早ハヤう合あを後款ノノキのそ家ウケを
尋タズんよハ又マタ又マタ達タチよハ時トキ
三年トシ後物ノモノの往ウキを尋タズ
ておおを達タチし去クる所トコロ四
く一イツ知チようハおを往ウキはそれよ
こハ一イツ知チようハおを往ウキはそれよ

或オシ人の往ウキを尋タズんよハ母ハハ
子コの名ナがひよちうハを往ウキを尋タズ
又マタ又マタ達タチよハ時トキ
を尋タズんよハ又マタ又マタ達タチよハ時トキ
三年トシ後物ノモノの往ウキを尋タズ
ざらうハと尋タズんよハ又マタ又マタ達タチよハ時トキ

或は陽柳文庫を之に換九千

